

第 38 回薬剤耐性菌研究会

会 期：平成 21 年 11 月 19 日（木）13:00～

平成 21 年 11 月 20 日（金）12:00

会 場：伊香保温泉 森秋旅館 会議室

〒377-0102 群馬県渋川市伊香保町伊香保 60

TEL: 0279-72-2601 FAX: 0279-72-5555

<http://www.moriaki-ikaho.co.jp/access/frame.html>

代表世話人：荒川 宜親（国立感染症研究所 細菌第二部）

事 務 局：山本 友子（千葉大学大学院薬学研究院
微生物薬品化学研究室）

池 康嘉（群馬大学大学院 細菌学）

研究会事務局 連絡先：群馬大学大学院 細菌学（岩崎）

TEL: 027-220-7992 FAX: 027-220-7996

e-mail: iwa-ryo@med.gunma-u.ac.jp

第 38 回薬剤耐性菌研究会

会場案内図（伊香保温泉 森秋旅館）



- ・ J R 渋川駅より伊香保温泉行バス 20 分 伊香保バスターミナル下車 徒歩 5 分
(渋川駅からの伊香保温泉行きバスは電車の到着と連結していますので便利です)

バス時刻表	渋川駅発	伊香保バスターミナル着
	11 : 48	→ 12 : 04 (急行)
	11 : 54	→ 12 : 19
	12 : 20	→ 12 : 45
	12 : 32	→ 12 : 53

(詳しくは <http://www.kan-etsu.net/r-bus/timetable/shibu-ikaho-1.htm>)

- ・ 車で来られる際には、森秋旅館に直接お越し下さい。

ご 案 内

●研究会ご参加の皆様へ

1. 参加受付

受付は11月19日（木）12:00より森秋旅館ロビーにて行います。

2. 口演発表

- ・ 演題の口演時間は12分、討論3分です。
- ・ 発表はMicrosoft Power Point でお願ひします。
- ・ 特に枚数の制限はありませんが、必ず制限時間内に終了するよう作成してください。
- ・ プレゼンテーションで使用できる機材は液晶プロジェクターのみですので、発表者はご自分のコンピュータ（PC）をご持参下さい。液晶プロジェクターの入力端子はDsub-15ピンのみです。ご使用になられるコンピュータのモニター出力をご確認下さい。必要な場合は各自アダプターをご持参下さい。コンピュータを持参できない場合は事務局へご連絡下さい。

第 38 回薬剤耐性菌研究会プログラム (発表 12 分、討論 3 分)

平成 21 年 11 月 19 日 (木)

(13:00~18:00)

13:00~14:00

VR_E・B 群レンサ球菌

座長：長野則之 (船橋市立医療セン

ター)

院内感染分離 *vanA* 型 VR_E の *vanA* 遺伝子の新たな特徴

○野村隆浩¹、富田治芳¹、池 康嘉^{1,2}

(¹群馬大院・医・細菌学、²同 薬剤耐性菌実験施設)

VR_E 遺伝子検査検出状況とバンコマイシン感性 VanB 型 VR_E とテイコプラニン耐性 VanB 型 VR_E の解析

○玉井清子^{1,2}、櫻成子¹、野竹重幸¹、柳沢英二¹

(¹株式会社ミロクメディカルラボラトリー、²国立感染症研究所 細菌第二部 協力研究員)

ペニシリン低感受性 B 群連鎖球菌 (Group B streptococcus with reduced penicillin susceptibility, PRGBS) の遺伝学的背景に関する解析

○木村幸司¹、長野則之²、長野由紀子¹、荒川宜親¹

(¹国立感染症研究所細菌第二部、²船橋市立医療センター)

座長：佐藤智明 (静岡県立がんセンター)

仙骨褥創より分離されたペニシリン低感受性 B 群レンサ球菌の分子学的特性

○長野則之^{1,3}、木村幸司³、長野由紀子³、薬丸洋秋²、荒川宜親³

(船橋市立医療センター ¹微生物検査室、²同 形成外科、³国立感染症研究所 細菌第二部)

14:00~14:30

環境・家畜における薬剤耐性

乳牛の親と仔の糞便及び飼育環境等に由来する大腸菌の薬剤感受性

○江寄英剛¹、長谷川めぐみ²、新館香奈子²、岩淵絵里子²、山本詩織²、村松昌武¹、平山紀夫¹、平井克哉²

(¹(財)畜産生物科学安全研究所、²天使大学)

養殖場由来 *Photobacterium damsela* subsp. *damsela* が保有する 200kb 薬剤耐性プラスミド全塩基配列解析とその伝達機構

○野中里佐¹、丸山史人²、宮本 学¹、黒川 顕²、増田道明¹

(¹獨協医科大学医学部微生物学講座, ²東京工業大学生命理工学研究科)

~~~~~コーヒーブレイク 14:30~14:45~~~~~

14:45~15:45

**耐性機構 1**

座長: 和知野純一(国立感染症研究所)

**PIPC (ピペラシリン) あるいは PIPC/TAZ (ゾシン) によって選択される緑膿菌耐性株の解析**

○ 谷本弘一<sup>1</sup>, 池 康嘉<sup>1, 2</sup>

(<sup>1</sup>群馬大院・医・薬剤耐性菌実験施設、<sup>2</sup>同 細菌学)

**多剤耐性緑膿菌および腸内細菌科カルバペネマーゼ産生菌に関する薬剤感受性成績の解析**

○ 佐藤智明<sup>1</sup>, 郡 美夫<sup>2</sup>, 長沢光章<sup>3</sup>, 犬塚和久<sup>4</sup>, 荒川宜親<sup>5</sup>

(<sup>1</sup>静岡県立がんセンター, <sup>2</sup>千葉市立海浜病院, <sup>3</sup>東北大学病院, <sup>4</sup>安城更生病院, <sup>5</sup>国立感染症研究所)

**臨床分離緑膿菌におけるカルバペネム耐性変異株出現抑制に関する検討**

○ 山口 高広, 廣岡 敬一郎, 土肥 正善, 堀 敏彦, 卷 秀樹, 山野 佳則

(塩野義製薬株式会社 創薬研究所)

**米国からの輸入事例に由来する多剤耐性 *Acinetobacter baumannii* の解析**

○ 長野由紀子<sup>1</sup>, 長野則之<sup>1,2</sup>, 外山雅美<sup>2</sup>, 諏訪直生<sup>2</sup>, 荒川宜親<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>国立感染症研究所 細菌第二部, <sup>2</sup>船橋市立医療センター 微生物検査室)

~~~~~コーヒーブレイク 15:45~16:00~~~~~

16:00~16:45

特別講演

座長: 佐々木 繁(塩野義製薬株式会社)

米国におけるカルバペネム耐性 *Klebsiella* と *Acinetobacter* の現状と問題点
土井 洋平

(Division of Infectious Diseases, University of Pittsburgh School of Medicine)

16:45~17:00

追加発言

座長: 米沢 実(明治製菓株式

会社)

高用量ゾシンの細菌学的考察

池 康嘉

(群馬大院・医・細菌学, 同 薬剤耐性菌実験施設)

17:00~18:00

招へい講演

座長：荒川宜親 (国立感染症研究所)

Molecular epidemiology of antimicrobial drug resistant Gram-negative bacterial pathogens

Lee W. Riley (School of Public Health, University of California, Berkeley)

2 日目

平成 21 年 11 月 20 日 (金)

(9:00~12:00)

9:00~10:15

耐性機構 2・薬剤

座長：木村幸司 (国立感染症研究所)

CTX-M ESBL 産生大腸菌におけるホスホマイシン耐性率と耐性機序の検討

○ 和知野 純一, 山根 一和, 鈴木 里和, 松井 真理, 木村 幸司, 加地 千春, 荒川 宜親
(国立感染症研究所細菌第二部)

**薬剤耐性菌が産生するメタロ-β-ラクタマーゼの蛍光検出法の開発
ダンシル基とチオール基をもつ蛍光剤のメタロ-β-ラクタマーゼ
IMP-1, VIM-2, IND-7 に対する蛍光特性と速度論的解析**

○ 松田幸喜¹, 山口佳宏², 廣瀬順造³, 荒川宜親⁴, 黒崎博雅⁵

(¹熊本大学大学院薬学教育部, ²熊本大学環境安全センター, ³福山大学薬学部, ⁴国立感染症研究所細菌第二部, ⁵熊本大学大学院医学薬学研究部)

Fluorescein di-β-D-galactopyranoside (FDG)を用いた排出ポンプ阻害剤の評価

○ 松本佳巳, 葉山浩平, 飯野亮太, 西野邦彦, 野地博行, 山口明人
(大阪大学産業科学研究所)

検出方法

座長：長沢光章 (東北大学病院)

滅菌スポンジと選択的培地を用いた多剤耐性アシネトバクターの高感度簡易検出法

○ Yohei Doi, Jennifer M. Adams-Haduch, Traci McGaha, Diana L. Pakstis

(Division of Infectious Diseases, University of Pittsburgh School of Medicine)

LAMP 法による 16S rRNA メチラーゼ遺伝子 (*rmtA*, *rmtB*, *armA*) の迅速検出 (第 2 報)

○長沢光章^{1, 2, 3}, 賀来満夫¹, 山口恵三², 蒲地一成³, 和知野純一³, 山根一和,³ 荒川宜親³

(¹東北大学病院診療技術部・検査部, ²東邦大学医学部微生物・感染症学講座, ³国立感染症研究所細菌第二部)

~~~~~コーヒーブレイク 10:15~10:30~~~~~

10:30~12:00

## IgY 抗体を用いたメチシリン耐性黄色ブドウ球菌 MRSA の検出

○<sup>1</sup>山田景子, <sup>1</sup>金万春, <sup>2</sup>木下圭司, <sup>2</sup>水谷誠, <sup>3</sup>村井篤嗣, <sup>2</sup>並河鷹夫, <sup>4</sup>大藏照子, <sup>1</sup>岡本陽, <sup>1</sup>太田美智男

(<sup>1</sup>名古屋大院・医・分子病原細菌、<sup>2</sup>名古屋大院・生命農・鳥類バイオサイエンス研究センター、<sup>3</sup>名古屋大院・生命農・応用分子生命科学、<sup>4</sup>名古屋大学医学部附属病院検査部)

座長：柳沢 英二 (株式会社ミロクメディカルラボラトリー)

## イムノクロマト法による多剤耐性緑膿菌の迅速検出

○安藤(北尾)公英<sup>1</sup>, 秋山 徹<sup>1</sup>, 島田 佳世<sup>1</sup>, 斎藤 暢子<sup>1</sup>, 田中 雅士<sup>2</sup>, 植原 謙次<sup>2</sup>, 切替 照雄<sup>1</sup>

(<sup>1</sup>国立国際医療センター研究所・感染症制御研究部, <sup>2</sup>株式会社ミズホメディイ)

## 疫学・感染制御

### 当センターにおける 2008 年度検出結核菌の薬剤感受性試験結果報告～2004 年との比較～

○吉多仁子, 藤田幸史郎, 所知都子, 北橋由紀子, 岩崎輝夫 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター 臨床検査科)、田村義孝, 永井崇之 (同 結核内科)、阿野裕美, 松本智成 (同 臨床研究部)

### Phage ORF typing (POT) 法による院内感染疑い事例の解析

○鈴木匡弘 (愛知県衛生研究所)、林 由美子 (国立病院機構豊橋医療センター)

座長：松本智成 (大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター)

### *Clostridium difficile* 感染症施設内アウトブレイク事例における分子疫学的検討

○加地 千春、加藤 はる、荒川 宜親

(国立感染症研究所、細菌第二部)

## アンチバイオグラムの自動分類と2次元カラーコードキャリアマップ(2DCM)のWebアプリケーション化による高精度感染対策の普及

○藤本 修平<sup>1</sup>、本間 操<sup>2</sup>、土手 健太郎<sup>3</sup>、荒川 宜親<sup>4</sup>

(<sup>1</sup>東海大学医学部基礎医学系生体防御学、<sup>2</sup>都立駒込病院臨床検査科、<sup>3</sup>愛媛大学医学部附属病院集中治療部、<sup>4</sup>国立感染症研究所細菌第二部)